今に生きる太鼓

宮古の歴史、文化の一つ、太鼓についての歴史や活動を中心に紹介していきます。

宮古で最初に活動を始めたのは三十五年前で、佐々木 清さん。山口太鼓を始めました。

宮古の太鼓は、神楽や盆踊りにより取り入れられて、山や森そして海などの四季を太鼓に表現されて演奏しています。

活動も山口太鼓を中心に県内外問わず活動しています。山口太鼓と藤原太鼓は海外公演があったりあばれ太鼓は二。。

五年の愛知万博に出演もしています。にもコンクールや祭り・歓迎会にも出ています。

インタビュー をする前に、太鼓のビデオを見せてもらいました。「基本は乱など映像を見て教えてもらいました日本のスポーツなどでも礼が大事なので和太鼓にも使われています。小野寺さんは「生きる力を育てたい」とおっしゃってました。太鼓を通して団結力を高め、後継者を育てていることが伝わりました。

取材協力／宮古太鼓協議会 小野寺岩夫さん

宮古の味

地元でとれたもので作る、郷土料理。中には百年以上の歴史があるものもあり、私たちの食生活にはかかせないものである。代表的なものとしては、ひゅうず、あずきばっと、あらまきざけなどがある。

郷土料理に使われる材料は、麩、さんま、どんこ、あぶらっこ(あいなめ)などの海の幸や、地元でとれた、だいこん、にんじんなどの野菜を使ったものばかりである。

行事ごとには、お正月はおにしめお彼岸には、おまんじゅうなどが作られる。

私たちは、郷土料理の中でも代表的なものとしては、ひゅうず、あずきばっと、あらまきざけなどがある。

歴史・文化

歴史に残る大和尚鞭牛

玄翁館にある鞭牛和尚の像

鞭牛和尚は三十数年間で、開伊街道など百ヶ所、全部で四百キロメートルの道路をおよぶ道路を開さくしました。

道具はつるはしなどを使い、たくさんの村人と共に作業を進めました。

道作りについて

西暦	概要
一七一〇	鞭牛・和井内に生まれる
一七三二	常楽寺に出家
一七五〇	最初の道普請橋野・大槌間を開さく
一七五二	北川目に念仏供養塔建立
一七五三	道作りに生涯を捧げる悲願をする
一七五八	閖伊街道開さく工事開始
一七六二	袴田に六角塔建立
一七六七	多年の道路改修の功労を認められ南部藩主より終身扶持
一七八二	鞭牛隠居屋敷にて示寂

鞭牛和尚はこのほかにも、数々の難所を開さくし、その場所に石碑を建てました。

取材協力／新里佐々木健さん

現代の人の思い

僕達は解説員の佐々木さんに、鞭牛のように皆で協力すれば大事な何かが得れる、と教わりました。僕達も鞭牛を見習って、協力して生きていきたいと思いました。

取材協力／新里佐々木健さん

まるっと！黒森神楽

黒森神楽は、黒森山の神霊を移した權現様(獅子頭)を携えて、悪魔祓いや火伏せの祈祷をして回ります。五穀豊穣(ごこくほうじょう)、大漁成就(たいりょうじょう)じゅや天下泰平(てんかたいへい)などの祈祷の舞によって人々を楽しませ祝福をもたらします。これを神楽衆は、「巡行(じゅんこう)」と言います。

この巡行は山口から久慈までの「巡り」、釜石までの「南廻り」があります。これほど広範囲を江戸時代の始めのころからずっと続けられてきたのです。この事は全国的にも類例(るいれい)がない、とても貴重なものです。

踊りの種類は、四十演目位あります。その中で、入門者がはじめに習うのが、榊葉(さかきば)という踊りです。直面に鳥兜(とりかぶと)をかぶり、女物の襦袢(じゅばん)に眼鏡(めがね)だれで襷(たすき)をかけ、榊幣(へいそく)、鍋杖(なべづえ)(しゃくじょう)、扇(おうぎ)を持って踊ります。

現在、黒森神楽を伝承するのは13人程。皆さんの期待に応えたいという思いを胸に、活動を続けています。

取材協力／市立図書館假屋さん

これぞ宮古人 方言・昔話 ものしり 多助 さん

昔話と方言は、その地方に昔から伝わる文化です。皆さんは、宮古の方言をどのくらい知っているのでしょうか。

方言とーロで言っても、あまりに多すぎて、その数はわからないそうです。その特徴としては、『あがいけろぉ』『舟にたまった水をかき出せ』ですび『まぐろのことなど、アイヌ語に由来するものが多いことです。それは、この辺りにアイヌの人が住んでいたからだそうです。

また、今回の取材で教えられた昔話は『三丁目の幽霊船』『おほしとおつき』『あかがいろ』の三つです。全体的に宮古の昔話は、家族愛の話や、海についての話自然についての話が多いようです。今、紹介した三つもそのような内容です。

今回、方言と昔話の取材に応じてくださったミヤさんからはいたみを消すおまじない、わらべうたなど、多くのお話しを教えていただきました。伝承する人は年々少なくなっていますがミヤさんの方言や昔話を大切にし、いろいろな人に伝えたいという思いを広めていきたいと思いました。

取材協力／金浜 宮山 ミヤさん